

昼公演 開場 14:30 開演 15:00 – 17:00

夜公演 開場 18:00

開演 18:30 - 20:30

会 場 ウィルあいち ウィルホール

全席自由: 2,000円

チケットの申し込み

東海聴覚障害者連盟 〒500-8384 岐阜市数田南5-14-53 岐阜県県民ふれあい会館6階 社団法人岐阜県聴資障害者協会気( TEL:058-278-1301 FAX:058-274-180

主催:財団法人全日本ろうあ連盟

共催: ロシア文化フェスティバル日本組織委員会

後援: ロシア連邦外務省 ロシア連邦文化省 ロシア連邦協力庁

駐日ロシア連邦大使館 ロ日協会

JAL

## 「チャーリーはどこだ?」

[原作] ジョージ・アボット [演出] G.ヤケルソン [振付] D.プロトキン [音響監督] S.ニゾフ

[衣装美術] N.エポフ [衣装・メイク] M.フォミナ [ナレーター・通訳] L.レヴィナ [日本語通訳] 日向寺 康雄

[キャスト]

チャーリー: A.コリャダ ジャック: R.フォミン エミー: E.エヴストラトヴァ キティ: S.ヴァクレンコ

スペッタイグ: 1.レスニコフ(ロシア連邦功労芸術家) フランシス: V.チェブイシェフ(ロシア連邦功労芸術家) ルシヤ: T.コヴァリスカヤ(ロシア連邦功労芸術家)

ブラセット: S.ロジン



















R.フォミン

S.ヴァクレンコ

V.チェブイシェフ

S.ロジン









## ◆モスクワ・パントマイム劇場について

モスクワ・パントマイム劇場についての多数の批評に は、「ありふれていない」「独特の」「独自の」といった形 容詞があふれている。1962年、聾唖のシューキン演劇大 学の第1期卒業生を中心に設立された、世界で初めての 聾唖の俳優によるプロの劇場である。

基本的に劇団員たちは聴力がなく、ジェスチャーや 表現や所作で会話をしている。舞台制作には、音や言 葉の色彩を保障し、声で非常に微妙な感情のニュアン スを伝える俳優たちが参加する。国外では、聴覚がな い俳優たちの可能性を研究するだけではなく、今日の 劇場の一般的な問題をも研究する研究室として認識さ れている。それぞれの劇場には、それぞれのテーマが あるはずである。人間の、周りの世界を理解し、その 中で自分の場所を見つけたいという希望は自然なもの である。それが聴覚のない人間であるなら、「自分とは 何者だろう?」「自分は何のためにこの世にいるのか?」 という問題は特に鋭いものとなる。パントマイム劇場は、 表現において独特であるばかりでなく、一般的な問題

をも包括し、芸術に奉仕することを追い求め、敏感に 生命を感じ、その不安や問題、痛みを実感しているの である。

モスクワ・パントマイム劇場は、40年の活動期間で、 ロシアや諸外国の劇作家の戯曲やロシア及び世界の古 典作品から100以上におよぶ劇を上演した。傑作とされ ているのは、「たくらみと恋」、「縛られたプロメテウス」、 E.フェドトフの戯曲による「喜劇王の笑いと涙」、「あり えなかった、アルトゥロ・ウイの出世」、「チャーリーは どこだ?」、「カプリチョス」などである。また、同劇場 では子どものために、「ガラスの心臓」「シンデレラ」「ジ ャングルブック・少年モーグリ」「アリババと盗賊たち」 などが上演された。19年間で「シンデレラ」は1046回、 定番の「ジャングルブック・少年モーグリ」が子どもたち のために上演されたのは、800回以上にのぼる。同劇場 は世界の多くの国々で公演を行っており、日本公演が 期待される。

## ◆あらすじ

19世紀、英国オックスフォード大学の学生チャーリーとジャックは、 女友達を昼食に招待します。卒業を間近に控えた彼ら、レディたちの 心を捕えるチャンスは今回限り…とばかりに張り切ります。しかし、 若い男女だけでの集まりはご法度の時代のこと、ブラジルに住むチャ ーリーの叔母がお目付け役として同席することに。ところが当日、時 間になっても叔母があらわれないことから、チャーリーは自分自身と叔 母さんの二役を演じる羽目となり…。ヴィクトリア王朝をパロディ化、 格式とルールに囚われた古い時代を現代のセンスで笑い飛ばしながら、 登場人物達の生き生きとした恋愛模様を描く、コミカルなトリックが満 載のミュージカルです。



地下鉄「市役所」駅 2番出口より東へ徒歩約10分 名鉄瀬戸線「東大手」駅 南へ徒歩約8分 基幹バス「市役所」下車 東へ徒歩約10分 市バス幹名駅1「市政資料館南」下車 北へ徒歩約5分

ウィルあいち ウィルホール 〒461-0016 愛知県名古屋市東区上竪杉町1番地 TEL: 052-962-2511 FAX: 052-962-2567 http://www.will.pref.aichi.jp/